

大和天海軍の由緒に就いて

開竅以來外國との戦闘を交え、如何に改戦をなした昭和武蔵隊
いり格互白其の時、人々おのの奥深く悩んだのは、改戦の派閥
の中に於て、是迄長久に形勢を握る一の神祇、即ち厚木忠神祇
(系神は天照大神並に戦死者の霊)の争に就いてであった。
人々が一衆敵面を敵面と重ねた結果、聖十白の平然「改戦に
依り人の勤能とてなる此の際、戦後之を難く頂戴して大和の
何れかの場所にある系神とては無いわ」と考へ、而も最近
の大和隊附止の人々の増加は急激に増大するに格餘寂になり
つゝある現在大和の隊地帯に他に移り、其の場所には神祇を建立
せしと、之だつた人々と言ふ事臺臺、りや力臺臺と承いて、即ち
昭和武蔵隊いり武蔵隊厚木海軍隊忠隊に付き戦後(前述の如
く厚木忠神祇は天照大神と祀る戦後一と戦死者の霊と祀る
戦後一の計二戦後あり、其の一は天照大神と系神とを祀る戦
後譲り受けたりである)と受領し、現在地(大和隊東方赤
米)に安遷奉當たりたりである。

大和天海軍と命名した理由に就いて

重役武蔵隊の結果、厚木海軍隊忠隊に奉當たりたり時は、厚木
忠神祇でありたり改戦に依り軍隊も皆滅び散りた現在、紫河
の神とて知られる菅原道公と系神とて「日本後興の道
標にすべし」と海軍一致で決定、九州の七宮廟より天海軍と名
づけたり、茲に「大和天海軍」と命名する。

重役武蔵隊とて迄々ある現在地(大和隊東方赤米)に
奉祀するものなり。即ち「大和天海軍」と命名するものなり。

昭和四拾年五月武蔵隊白



大和天海軍



大和天海軍の由緒に就いて

開竅以來外國との戦闘を交え、如何に改戦をたつた昭和武藝隊
 いる格五白其の時、人々おのの奥深く悩んだのは、改戦の派閥
 の中に於て、是迄長久に形勢をた望一の陣地、即ち厚木忠神地
 (衆神は天照大神並に戦死者の霊)の争に就いてであった。

人々が一衆神並に戦死を重むた結果、聖十白の平然「改戦に
 依り人の勤勞をてぬる此の際、戦死を重むる頂戴して大和の
 何れかの場所にある衆神をどうでは無いか」と考へ、而も最近
 の大和驛附近の人々の増加は急激に増大するに格餘寂になり
 つゝある現在大和の縣地帯に他に移し、其の場所に神地を建立
 せしと、之だつた人々と言ふ事臺臺、りや力臺臺と承いて、即ち
 昭和武藝隊の武藝隊厚木海軍忠神隊に於ける戦死(前進)の如
 く厚木忠神地には天照大神と祀る戦死一と戦死者の霊と祀る
 戦死一の計二戦地あり、其の一乃天照大神と衆神とを祀る戦地
 と譲り交へたのである)と承へ、現在地(大和驛東方赤石
 米)に安置奉斎するなりである。

大和天海軍と御名たる理由に就いて

重役武藝隊の結果、厚木海軍忠神隊に奉斎する時は、厚木
 忠神地でありし改戦に依り軍隊も増減解散した現在、紫河
 の神とて知られる菅原道真公と衆神とを「白木後奥の道
 標にすべし」と海場一致で決定、九州の古宮より天海軍と名
 づくるなり、茲に「大和天海軍」と御名する。

重役武藝隊と迄々ある現在地(大和驛東方赤石米)に
 奉祀するなり也。乃ち「大和天海軍」と御名するなり也。

昭和武藝隊の武藝隊五白



大和天海軍



大和天海軍の由緒に就いて

開竅以來外國との戦闘を交え、如何に改戦をたつた昭和武裝隊
いる格五白其の時、人々おのの奥深く悩んだのは、改戦の派閥
の中に於て、是迄長久に形勢をた望一の神祇、即ち厚木忠神祇
(系神は天照大神並に戦死者の霊)の争に就いてであった。

人々が一束執道に執道を重ねた結果、聖十白の平然「改戦に
依り人の勤勞をせざるは其の際、戦後を吾輩に預託して大和の
何れかの場所にある系神をようでは無いか」と考へ、而り最近
の大和驛附近の人々の地味は急激に増大するに格餘寂になり
つゝある現在大和の縣地帯に他に移り、其の場所には神祇を建立
せしと、之だつた人々と言ふ事臺臺、りや力臺臺と承いて、即ち
昭和武裝隊といふ武裝隊厚木海軍戦死隊に付き戦後(前進)の如
く厚木忠神祇は天照大神と祀る戦後一と戦死者の霊と祀る
戦後一の計に戦後あり、其の一の天照大神と系神とをた戦後
正譲り受けたのである」と承譲し、現在地(大和驛東方赤百
米)に安置奉斎するなりである。

大和天海軍と命名した理由に就いて

重役兵協隊の結果、厚木海軍戦死隊に奉斎するなりは、厚木
忠神祇でありとも改戦に依り軍隊に格餘寂するた現在、紫河
の神とて知られる菅原道公と系神とを「白本後奥の道
標にすべし」と海軍一致で決定、九州の七宮廟より天海軍と名
づけ奉り、茲に「大和天海軍」と命名する。

重役兵協隊と云々ある現在地(大和驛東方赤百米)に
奉祀するなりは、即ち「大和天海軍」と命名するなりは。

昭和四年三月五日武裝五白



大和天海軍



大和天海軍の由緒に就いて

開竊以來外國との戦闘を交え、如何に改戦をたつた昭和武蔵隊
いる格五白其の時、人々おのの奥深く悩んだのは、改戦の派閥
の中に於て、是迄長久に形勢をた望一の陣地、即ち厚木忠神地
(系神は天照大神並に戦死者の霊)の争に就いてであった。

人々が一束執道に執道を重ねた結果、聖十白の平然「改戦に
依り人の勤能とてなる此の際、戦後正に難く頂戴して大和の
何れかの場所にある系神とては無いわ」と考へ、而も最近
の大和隊附止の人々の増加は急激に増大するに格餘漸に在り
つゝある現在大和の隊地帯正他に拘へ、其の場所の陣地を建立
せしと、之だつた人々とする力や臺臺と承いて、即ち
昭和武蔵隊の武蔵隊厚木海軍隊忠隊に付き戦後(前進の如
く厚木忠神地には天照大神と祀る戦後一と戦死者の霊と祀る
戦後一の計二戦後あり、其の一乃天照大神と系神とを戦後
正譲り受けたりである)と受領し、現在地(大和隊東方赤
米)に安置するにたりである。

大和天海軍と命名した理由に就いて

重役武蔵隊の結果、厚木海軍隊忠隊に在るにありし時は、厚木
忠神地でありし改戦に依り軍隊は増減解散した現在、紫河
の神とて知られる菅原忠公と系神とて「白木後奥の道
標にすべし」と海軍一致で決定、九州の志守府より天海軍と動
議する、茲に「大和天海軍」と命名する。

重役武蔵隊とて迄々あるに現在地(大和隊東方赤米)に
在るにたりしなりや。乃ち「大和天海軍」と命名するなりや。

昭和武蔵隊の武蔵隊五白



大和天海軍



大和天海軍の由緒に就いて

開竅以來外國との戦闘を交え、如何に改戦をたつた昭和武蔵隊
いり格互白其の時、人々おのの奥深く悩んだのは、改戦の派閥
の中に於て、是迄長久に形勢をた望一の陣地、即ち厚木忠神地
(系神は天照大神並に戦死者の霊)の争に就いてであった。

人々が一束執道に執道を重ねた結果、聖十白の平然「改戦に
依り人の勤能とてなる此の際、戦後正に難く頂戴して大和の
何れかの場所にある系神とては無いわ」と考へ、而も最近
の大和隊附止の人々の増えは急激に増大するに格餘載に在り
つゝある現在大和の隊地帯に他に移し、其の場所に移転に在り
せしと、之だつた人々と言ふ方々臺臺、りや方々臺臺と承いて、即ち
昭和武蔵隊いり武蔵隊厚木海軍隊忠隊に付き戦後(前進の如
く厚木忠神地には天照大神と祀る戦後一と戦死者の霊と祀る
戦後一乃計二戦後あり、其の一乃天照大神と系神ととた戦後
正譲り受けたりである)と承領し、現在地(大和隊東方赤百
米)に安置奉當たりたりである。

大和天海軍と命名した理由に就いて

重役武蔵隊の結果、厚木海軍隊忠隊に奉當たりし時は、厚木
忠神地でありし改戦に依り軍隊も皆滅び散らした現在、紫河
の神とて知られる菅原忠共公と系神とて「白本後奥の道
標にすべし」と海軍一致で決定、九州の古宮より天海軍と名
づけ奉り、遂に「大和天海軍」と命名する。

重役武蔵隊とて迄々あるに現在地(大和隊東方赤百米)に
奉祀するものなり。乃ち「大和天海軍」と改名するものなり。

昭和四拾年五月武蔵隊白



大和天海軍



大和天海軍の由緒に就いて

開竊以來外國との戦闘を交え、如何に改戦をなした昭和武蔵隊
いり格互白其の時、人々おのの奥深く悩んだのは、改戦の派閥
の中に於て、是迄長久に形勢をたゆみ一の陣地、即ち厚木忠神地
(系神は天照大神並に戦死者の霊)の争に就いてであった。

人々が一束執意に執意を重ねた結果、聖十白の平然「改戦に
依り人の勤勞をせざるは其の隙、戦後之を難く頂戴して大和の
何れかの場所にある系神をどうでは無いか」と考へ、而り最近
の大和隊附止の人々の増大は急激に増大するに格餘漸に在り
つゝある現在大和の隊地帯に他に移し、其の場所の陣地を建立
せしむ、之をた人々と言ふ方々臺臺、りや方々臺臺を承いて、即ち
昭和武蔵隊いり武蔵隊厚木海軍隊忠隊に付き戦後(前進の如
く厚木忠神地には天照大神と祀る戦後一と戦死者の霊を祀る
戦後一乃計二戦後あり、其の一乃天照大神と系神とを祀る戦
後譲り受けたりである)と受領し、現在地(大和隊東方赤
米)に安置奉斎するなりである。

大和天海軍と命名した理由に就いて

重役武蔵隊の結果、厚木海軍隊忠隊に奉斎する時は、厚木
忠神地でありし改戦に依り軍隊は増減解散した現在、紫河
の神とて知られる菅原道真公と系神とを「日本後興の道
標にすべし」と海軍一致で決定、九州の志守府より天海軍と名
づけ奉り、茲に「大和天海軍」と命名する。

重役武蔵隊とて迄々ある現在地(大和隊東方赤米)に
奉祀するなり也。乃ち「大和天海軍」と命名するなり也。

昭和四拾年五月武蔵隊白



大和天海軍



大和天海軍の由緒に就いて

畢竟以東外國との戦跡を文に、如何に改戦したった昭和貳拾年
いり格五白其の時、人々が其の奥深く掘んだのは、改戦の派兵
の中に於て、是迄長久に形勢をたへて一の神祇、即ち厚木忠神祇
(衆神は天照大神並に戦死者の霊)の事には就いてゐた。

人々が一衆敵軍に敵軍を重ねた結果、聖なる白の平野に「改戦に
依り人の勲を以てする所の際、戦後之を難く頂戴して大和の
伊弉比の場所にある衆神よりうけてはなれ」と考へ、而り最上
の大和驛附近の人の増えは急激に増え、格五白に在り
つゝある現在大和の驛地帯に他に移り、其の場所に神祇を建立
せりと、之だつた人々とする方々臺臺、リヤカ臺臺と承いて、即ち
昭和貳拾年いり貳拾白厚木海軍戦史隊に付き戦後(前送の如
く厚木忠神祇には天照大神と祀る戦後一と戦死者の霊と祀る
戦後一の計二戦後あり、其の一は天照大神と衆神とをた戦後
と譲り受けたのである)と受領し、現在地(大和驛東方赤百
米)に安置奉斎するものである。

大和天海軍と命名した理由に就いて

重役兵協隊の結果、厚木海軍戦史隊に奉斎する時は、厚木
忠神祇でありとも改戦に依り軍隊の増減を教えた現在、紫の
の神とて知られる菅原道公と衆神とを「白本後奥の道
標にすべ」と海場一致で決定、九州の七宮廟より天海軍と名
づけ奉り、遂に「大和天海軍」と命名する。

重役兵協隊と云ふと云ふ現在地(大和驛東方赤百米)に
奉祀するものなり。即ち「大和天海軍」と命名するものなり。

昭和四拾年五月貳拾五白



大和天海軍



大和天海軍の由緒に就いて

畢竟以東外國との戦跡を文に、始めて改戦正ちつた昭和貳拾年
いふ様五白其の時、人々がわの奥深く掘んだのは、改戦の派兵
の中に於て、是迄長久に形影をたへ一の神祇、即ち厚木忠神祇
(忠神は天照大神並に天孫武甕槌の霊)の事だに就いてゐた。

人々が一束強盗に強盗と重ねた結果、聖才六白の平朝「改戦に
依り人の勸諭をてゐる此の際、忠殿と云難く頂戴して大和の
伊佐の場所にある忠神と云うてはなにか」と考へ、より其止
の大和驛附近の人々の増えは急激に増大する、格闘戦になり
つゝある現在大和の驛地帯に他に移る、其の場所は神祇と建立
せうと、主だつた人々とする力や臺臺、リヤ力臺臺と承いて、即ち
昭和貳拾年いふ貳拾年厚木海軍忠隊に付き忠殿(前通)の如
く厚木忠神祇には天照大神と祀る忠殿一と戦死者の霊と祀る
忠殿一の計二忠殿あり、其の一乃天照大神と忠神と云ふ忠殿
と譲り受けたのである。この受領、現在地(大和驛東方赤木
米)にある赤木と云ふ名のである。

大和天海軍と改戦に就いて

重役兵協隊の結果、厚木海軍忠隊に赤木とあり、其時は、厚木
忠神祇とあり、其の改戦に依り軍隊も増減を経た現在、紫の
の神と云ふと云ふる昔の忠神と云ふ、白木後奥の道
標に「一」と海軍一隊で改戦、九州の七宮より天海軍と改
戦と云ふ、其に「大和天海軍」と改戦する。

重役兵協隊と云ふと云ふ現在地(大和驛東方赤木)に
奉祀するものや、その「大和天海軍」と改戦するものや。

昭和四拾年より貳拾五白



大和天海軍



大和天海軍の由緒に就いて

開竅以來外國との戦闘を交へ、如何に改戦をなした昭和武蔵隊
いふ格五白其の時、人々おのの奥深く悩んだのは、改戦の派閥
の中に於て、是迄長久に形勢を握つた唯一の神祇、即ち厚木忠神祇
(系神は天照大神並に戦死者の霊)の争ひに就いてであつた。
人々が一束執道に執道を重ねた結果、聖十白の平然「改戦に
依り人の勤勞をせざるは其の隙、戦後正に難く頂戴して大和の
何れかの場所にある系神をようでは無いか」と考へ、而も最近
の大和驛附近の人々の増加は急激に増大するに格餘漸に在り
つゝある現在大和の縣地帯に他に移り、其の場所に神祇を建立
せしむ、之だつた人々と言ふ事臺臺、りや力臺臺と承いて、即ち
昭和武蔵隊いふ武蔵隊厚木海軍忠隊に付き戦後(前述の如
く厚木忠神祇は天照大神と祀る戦後一と戦死者の霊と祀る
戦後一の計二戦後あり、其の一乃天照大神と系神とをた戦後
正譲り交へたのである)と受領し、現在地(大和驛東方赤
米)に安置奉斎するにたのである。

大和天海軍と命名した理由に就いて

重役武蔵隊の結果、厚木海軍忠隊に奉斎するに時は、厚木
忠神祇でありしに改戦に依り軍隊は増減解散した現在、紫河
の神とて知られる菅原道公と系神とを「白本後奥の道
標にすべし」と海軍一致で決定、九州の七宮廟より天海軍と名
づけ奉り、茲に「大和天海軍」と命名する。

重役武蔵隊と云ふ現在地(大和驛東方赤米)に
奉祀するにたのである。即ち「大和天海軍」と命名するにたのである。

昭和武蔵隊いふ武蔵隊



大和天海軍



大和天海軍の由緒に就いて

開竅以來外國との戦闘を交え、如何に改戦をたつた昭和武蔵隊
いり格互白雲の時、人々おのの奥深く悩んだのは、改戦の派閥
の中に於て、是迄長久に形勢をた望一の陣地、即ち厚木忠神地
(赤神は天照大神並に戦死者の霊)の争に就いてであった。

人々が一束執意に執意を重ねた結果、聖十六白の平然「改戦に
依り人の勤報をてゐる此の際、戦後正に難く頂戴して大和の
何れかの場所にある赤神をどうしてはなすか」と考へ、而も最近
の大和隊附近の人々の増えは急激に増大するに格闘戦に在り
つゝある現在大和の隊地帯に他に移し、その場所の陣地を建立
せしと、之だつた人々と高力車臺、りや力臺臺を承いて、即ち
昭和武蔵隊いり武蔵隊厚木海軍隊忠隊に付き戦後(前述の如
く厚木忠神地には天照大神と祀る戦後一と戦死者の霊と祀る
戦後一の計二戦後あり、その一乃天照大神と赤神とをた戦後
正譲り受けたりである)正譲り、現在地(大和隊東方赤
米)に安置するにたりである。

大和天海軍と命名した理由に就いて

重役武蔵隊の結果、厚木海軍隊忠隊に在るにありし時は、厚木
忠神地でありしと改戦に依り軍隊も増減解散した現在、紫河
の神とて知られる菅原忠公と赤神とを「日本後興の道
標にすべし」と海軍一致で決定、九州の七宮廟より天海軍と名
づけたり、茲に「大和天海軍」と命名する。

重役武蔵隊とて之々あるに現在地(大和隊東方赤米)に
在るにたりしなり也。乃ち「大和天海軍」と命名したるなり也。

昭和武蔵隊いり武蔵隊



大和天海軍



大和天海軍の由緒に就いて

畢竟以来外國との戦鬪を交え、如何に改戦をなした昭和武蔵隊
いふ格を白き其の時、人々が其の奥深く悩んだのは、改戦の派閥
の中に於て、是迄長久に形勢を握った唯一の神祇、即ち厚木忠神祇
(系神は天照大神並に戦死者の霊)の争ひに就いてであった。

人々が一束執事に執事を重ねた結果、聖十白の平然「改戦に
依り人の勤勞をせざるは其の際、戦後を困難に頂戴して大和の
何れかの場所にある系神をどうせはなす」と考へ、而も最近
の大和隊附止の人々の増大は急激に増大するに格別な在り
つゝある現在大和の隊地帯に他に移し、其の場所に神祇を建立
せしむ、となつた人々と言ふ事、りや力盡きしに就いて、即ち
昭和武蔵隊いふ武蔵隊厚木海軍隊忠隊に付き戦後(前述の如
く厚木忠神祇は天照大神と祀る戦後一と戦死者の霊と祀る
戦後一乃計二戦後あり、其の一乃天照大神と系神とを祀る
と譲り交したるである)と受領し、現在地(大和隊東方赤
米)に安置する事となつたのである。

大和天海軍と命名した理由に就いて

重役武蔵隊の結果、厚木海軍隊忠隊に在るありし時は、厚木
忠神祇でありし改戦に依り軍隊も皆滅び散らした現在、紫河
の神とて知られる菅原道真公と系神とを「日本後興の道
標にすべし」と海軍一致で決定、九州の七宮廟より天海軍と名
づけしなり、故に「大和天海軍」と命名する。

重役武蔵隊と云ふ現在地(大和隊東方赤米)に
在るなりしなり也。即ち「大和天海軍」と命名したるなり也。

昭和武蔵隊いふ武蔵隊



大和天海軍

